



発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
法人 宮城県畜産協会
電話 022-298-8473

編集発行人
大堀 哲

印刷所
株式会社東北プリント



(社)宮城県畜産協会 新事務所

もくじ

CONTENTS

平成16年度畜産施策の概要と 新規事業の紹介 …………… 2	畜試便り<海藻アカモク粉末の飼料への添加が 豚の免疫機能に及ぼす影響> … 7
ニューみやぎのボーク “新宮城野豚” …………… 4	衛生便り<高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) > ～疾病の紹介と愛玩鶏やペットについて～ … 8
低コストふん尿処理施設について③ …………… 5	New face …………… 8
(社)宮城県畜産協会事務所移転のご案内 …………… 6	人の動き …………… 9
実践大生校生の抱負 「全国農業大生校等プロジェクト発表会に参加して」 … 6	

みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
Eメール mygchiku@mwnet.or.jp

平成16年度畜産施策の概要と新規事業の紹介

宮城県産業経済部畜産課

I 基本方針

本県の畜産は、食生活の多様化等を背景とした畜産物の需要に支えられ、農業産出額の3割を占めるまでに成長し畜産主産県としての位置を確立しています。

また、畜産物の生産活動を通じた環境の保全という本来的な役割に加え、体験や交流を通じた豊かな人間の育成といった役割も担いながら、農業の基幹部門として重要な役割を果たしています。

しかしながら、平成13年9月の牛海綿状脳症(BSE)の発生以降、度重なる食品の不正表示問題の発覚など、食品の安全や品質に対する信頼を根底から揺るがす事態を招いています。さらには米国でのBSE発生による米国産牛肉の輸入禁止、国内で79年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザの発生など、「食」に対する消費者の関心が一層高まる中で、県民に信頼される畜産物の生産体制を築くことが急務となっています。また、農業従事者の高齢化や担い手不足による生産基盤の弱体化、国際化の進展による低コスト化への対応、環境への負荷軽減や家畜衛生対策の強化も求められています。

このため、県では、平成12年7月に農業・農村振興の目標を掲げた「みやぎ食と農の県民条例」を制定、平成13年10月には条例に定めた目標を達成するための基本的な道筋を示した基本計画を策定したところで

す。さらに、平成16年3月には「みやぎ食の安全安心推進条例」を制定し、昨年策定した食の安全安心に係る基本方針やアクションプランの実効性を担保し、食の安全安心の確保に関する施策を総合的に推進してまいります。

以上のことを踏まえ、平成16年度においては、牛海綿状脳症対策特別措置法に定められた24ヶ月齢以上の死亡牛の全頭検査を引き続き実施するとともに、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法に基づく個体識別情報の管理と伝達、BSEの発生により経済的に影響を受けた畜産農家に対する支援対策を継続します。また、平成16年10月末を期限とする家畜排せつ物法に基づく管理基準の適用猶予期限内に、家畜排せつ物の管理の適正化が図られるよう、家畜排せつ物処理施設の整備を重点的に進めるとともに、耕畜連携による転作田での飼料作物生産を積極的に推進します。さらに、肉質と肉量を兼備した肉用牛生産体制を確立するとともに、ゆとりある効率的な酪農経営を目指した牛群の改良やヘルパー制度の充実を図ります。あわせて、系統豚「しもふりレッド」の供給体制を確立するとともに、新たなランドレース種の系統造成を引き続き実施します。

なお、これら施策の展開に当たっては、「新世紀 足腰の強い 宮城の畜産」をスローガンに、次の六項目を重点施策に掲げ、国、市町村、畜産関係団体との連携を一層強化し、幅広い視点から総合的な施策を展開してまいります。

- 1 畜産物の安心・安全性の確保と生産支援
- 2 快適な畜産を支える生産環境の整備
- 3 21世紀みやぎの肉用牛生産の振興
- 4 先進的な養豚経営の振興
- 5 ゆとりある生産性の高い酪農経営の振興
- 6 新たな畜産技術の開発と活用



II 平成16年度畜産課当初予算一覧表

科目・事業名		本年度予算額(千円)
I 畜産総務費		670,621
II 畜産振興費		2,499,468
1	家畜改良増殖事業費	57,401
2	家畜改良対策事業費	1,881
3	畜産高度生産技術実用化促進事業費	9,713
4	畜産流通対策事業費	86,815
5	地域畜産振興事業費	14,144
6	畜産環境総合整備事業費	1,032,562
7	みやぎの快適畜産総合対策事業費	182,235
8	畜産団体等育成強化事業費	350,984
9	公共育成牧場対策事業費	113,817
10	草地開発整備事業費	449,153
11	自給飼料生産対策事業費	7,502
12	流通飼料対策事業費	2,478
13	学校給食用牛乳供給事業費	1,685
14	生乳流通改善対策事業費	23,807
15	酪農経営体質強化対策事業費	515
16	畜産振興総合対策推進事業費	570
17	養豚振興総合対策事業費	1,944
18	21世紀みやぎの牛づくり活性化事業費	162,262
III 家畜保健衛生費		125,145
1	家畜伝染病予防事業費	55,077
2	家畜保健衛生費	34,053
3	家畜衛生事業費	36,015
合 計		3,295,234

III 平成16年度の主な新規事業

1 家畜排せつ物処理施設緊急整備事業

「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」(家畜排せつ物法)の管理基準に適合する施設整備を促進し、畜産農家の健全育成と地域の環境保全を推進する。

- (1) 事業主体 営農集団、市町村長が認める認定農業者
- (2) 事業年度 平成16年度
- (3) 16年度予算額 50,000千円
- (4) 事業内容

営農集団等が家畜排せつ物処理施設の整備を行う場合、整備費の1/6以内、500千円を上限として助成する。

2 食肉流通適正化推進事業

牛肉の安全性に対する信頼確保やBSEのまん延防止措置の的確な実施などを目的に、牛を個体識別番号により一元管理するとともに、生産・流通の各段階において当該個体識別番号を正確に伝達するための牛トレーサビリティ制度の構築を推進する。

- (1) 事業主体 宮城県
- (2) 事業年度 平成16年度
- (3) 16年度予算額 277千円
- (4) 事業内容

食肉流通に関するトレーサビリティ関連制度の円滑・適正な実施のため、生産者及び流通業者に対し指導、普及啓発を図る。

(畜産振興班 中條 満)

ニュー みやぎの ポーク
 “新宮城野豚”

全農宮城県本部

1. 宮城野豚の取組み

平成2年3月に宮城県畜産試験場で造成された系統豚「ミヤギノ」を基軸として大ヨークシャーを交配したものにデュロック種を交配させた3元交配肉豚の生産を開始しました。系統豚「ミヤギノ」利用により生産された肉豚を平成5年から『宮城野豚』として販売してきました。

2. 消費動向の変化

平成13年9月におけるBSE患畜の確認以来、食品の偽装表示や無登録農薬の使用問題等の発生において消費者に対する信頼回復が急務になっております。食品安全5法の成立を踏まえて、飼養管理（衛生管理等）の徹底や生産工程の記録・記帳、そして生産過程ならびに流通分野品質管理情報等の積極的公開が求められています。また、この7月において、農水省のネット調査でも『遺伝子組換え食品』について消費者の6割以上が安全性に不安を感じ、購入を控えたいとしている結果等を踏まえ、給与飼料原料等への配慮も必要であります。このような、大きな情勢変化において国産農畜産物の復権の機会と捉え、生産管理システム等を消費の基軸で構築するようになっております。

3. 『しもふりレッド』の完成

平成14年3月に全国で66番目の系統豚として成長が早く、脂肪分を5%以上とした霜降り豚が生産できる遺伝子を固定した『しもふりレッド』を宮城県畜産試験場が作出しました。明確に区分された商品としての位置付けを確保するとともに類似商標の発生を防止するため、県と本会の共有商標として登録いたしました。

4. 新たなランドレースの系統造成の開始

宮城県畜産試験場においてポスト『ミヤギノ』の新たなランドレースの系統造成を開始します。14年間の長きにわたって利用されてきたためミヤギノに代わって、現行の養豚、消費動向にマッチした新たな系統造成豚への期待が寄せられております。

5. 新たな『宮城野豚』の取組み

基本的には系統豚『ミヤギノ』利用のF1母豚と系統豚『しもふりレッド』の利用する生産農家を登録していく認定登録農場制を継続します。特に『しもふりレッド』の肉質を受け継いだ《柔らかさ、多汁性に優れ、オレイン酸が多く、融点が低く、舌触りがいい》特徴を生かした豚肉の生産を目指します。

更に、生産過程における給与飼料によって、特色を出した生産体系を整備して

①豚肉の美味しさを最大限に生かした仕上げ飼料を与え、これまで以上にお肉の旨みを凝縮した『新宮城野豚』

②主原料であるトウモロコシを遺伝子組み替えしないもの（NON-GMO）で保管のため農薬を使わないポストハーベストフリー（PHF）を使用し、更なる安全・安心を確保した飼料で育成した（仮称）『宮城野豚 健元気（みやぎのポークすこやかげんき）』

2本立てで進めてまいりたいと考えています。今後、ポストミヤギノの途中世代を利用したLWも『ミヤギノクロス』として、新たな宮城野豚の生産拡大に取組みたいと考えます。

更には、生産工程の情報公開JAS制度等の制定により、生産履歴、個体管理（耳刻等）が生産現場においても必要になっていることを十分ご理解いただき、新たな一步を踏み出そうと考えております。

最後になりましたが、この『しもふりレッド』、『ポストミヤギノ』の系統造成にかかる県当局をはじめとする関係者の方々の努力と熱意に感謝を申しあげるとともに、なお一層、生産農家の方々のご理解とご協力をお願い申し上げます。

（畜産課長 大友良彦）

<p>畜産振興の明日を 担う地方競馬</p>  <p>地方競馬全国協会</p>	<p>●効能……産卵時の臭い込み、消化吸収促進 悪臭防止、優良地産作り 創業30年の歴史実績を誇る安全、天然野菜酵母</p> <p>Ferment Feed ピタコーゲン</p> <p>株式会社 セイフ 東北支店 〒984-0228 仙台市青葉区伊子字東通 302-104 TEL: 022-287-6361 FAX: 022-287-6362</p>	<p>動物用飼料用 犬・猫用/工飼用 フロントラインスプレー</p>  <p>動物用飼料用 ビタミンE・ビタミンB群配合のサプリメント 錠塩E100</p> <p>日本ゼンヤク工業(株) 東北事業部 〒980-2301 宮城県仙台市青葉区中央1丁目11-1 TEL: 022-348-4780 FAX: 022-348-4784</p>
--	---	--

低コストふん尿処理施設について③

宮城県産業経済部畜産課

前号では床面にシートを敷き、パイプハウス利用によるふん処理施設の事例について紹介しました。県内では他にも、以下に見られるように簡易、あるいは低コストによる処理施設が設置されています。家畜排せつ物を管理する上での留意点を考察しながら紹介したいと思います。

事例①



畜舎との段差を利用した堆肥盤にパイプハウスを附設した低コスト堆肥舎です。このような構造で注意したいのは、パイプの間や床面との間に隙間がある場合には、そこから排汁や堆肥の流出が考えられることから、これらを防止する対策が必要となります。

事例②



堆肥盤に低い側壁を設け①と同様にパイプハウスを附設したものです。側壁があるため排汁等の流出が抑えられる構造とはなりますが、堆肥そのものは高く堆積することはできません。高く堆積した場合、パイプの間から外部に漏出する恐れがありますので、それに対する対策が必要となります。

事例③



この事例は50 cm程度のコンクリート製側壁の上部にコンパネで側壁を足したものです。側壁を高くしたことにより、堆肥舎そのものの容積を大きくすることができます。ただ、堆肥の動圧に耐える構造とする必要があること、この事例のように屋根が低い場合、作業性が劣ることもありますので、それらへの対策が必要となります。

事例④



この事例は、T字型のプレキャスト擁壁を組み合わせることで堆肥舎としたものです。プレキャスト背面にはパイプを通す穴が開けてあり、構造的にも強度を持たせたものとなっています。床面はビニールシートを敷き、床土を戻す構造とすることもできます。この施設は県畜産試験場並びに岩出山牧場に設置されています。

以上、県内に設置されている簡易、低コスト事例について紹介しましたが、適正処理をするためには構造的なものもさることながら、実際施設を使う皆様の創意工夫が非常に重要となります。水分含量の高い排せつ物の水分を下げて簡易処理施設に入れることや、既存施設との組み合わせによりコストを掛けずに効率的に処理する等考えてみてはいかがでしょうか。

なお、施設を設置する場合には、県の機関であれば家畜保健衛生所や地域農業改良普及センターに畜産環境アドバイザーがおりますので、お気軽に御相談下さい。

今年11月1日には適正な管理で迎えられるよう皆様の取り組みをお願いいたします。

(草地飼料班 齋藤弘之)

(社)宮城県畜産協会事務所移転のご案内

移転日(業務開始)
平成16年3月29日(月)

新住所(本所)
〒983-0832
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
URL : <http://miyagi.lin.go.jp>
E-mail : mygchiku@mwnet.or.jp

- 総務課
TEL : 022-298-8471 FAX : 022-293-2311
- 家畜衛生課
TEL : 022-298-8472 FAX : 022-293-2311
- 経営支援課
TEL : 022-298-8473 FAX : 022-292-5395
- 価格安定課
・子牛
TEL : 022-298-8474 FAX : 022-257-4315
・マルキン
TEL : 022-298-8475 FAX : 022-257-4315
- 家畜改良課
TEL : 022-298-8476 FAX : 022-292-5395
- 生乳検査課
TEL : 022-257-0006 FAX : 022-293-2311
TEL : 022-298-9750

※仙南事業所・中央事業所・仙北事業所の住所・電話番号は変更ありません。



<実践大学校生の抱負>

「全国農業大学校プロジェクト発表会に参加して」

宮城県農業実践大学校畜産学部
1年 菊田 秋恵



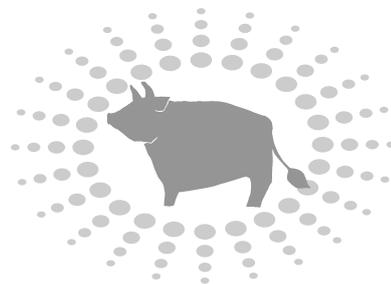
第6回全国農業大学校等プロジェクト発表会に参加して、様々な発表を聞くことが出来ました。その中でも、一番印象に残っているのは、最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞した、鹿児島県立農業大学校の川口和樹さん、笹峰圭隆さんの「経膈超音波採卵技術による子牛生産の実証～体外受精最新技術への挑戦～」という発表でした。

その内容は、牛に対する障害が少ないうえに効率よく、正常な雌牛からの採卵はもちろんのこと、移植可能胚の回収率が低下した供卵牛や、若齢牛、妊娠牛及び繁殖障害牛からも卵子の回収が可能で、実際4頭に移植し2頭の子牛が誕生したそうです。とても、この発表内容には感心しました。

いずれ、この技術が発達すると同時に、この技術ももっと確実なものとなり普及していくのではないかと思います。

来年度実施するプロジェクトについては、自分が将来行う繁殖経営について研究してみたいと考えております。畜舎の建設費用や時間、経営費用等を、事例をもとに調査するとともに、実際に子牛市場でどれくらいの値段で売買出来るか等を検討し、将来の夢に向けて頑張りたいと考えています。

第6回農業大学校等プロジェクト発表会に参加できたことを、これから歩いていく自分にプラスしていきたいと思います。



WORLD SPORTS

株式会社 五十嵐商会
仙台市宮城野区御町五丁目1番地4
電話(022)236-2525(代表)

KOMATSU

カンタン操作で、
肥料も堆肥もラクラク作業

コマツ宮城株式会社
仙台市宮城野区御町二丁目1の30
電話(022)(237)7441番机

肉牛出栏、羔羊移動ストレス対策の栄養管理に!!

ルビックス
牛用配合飼料

S

アミノ酸、ビタミン、ミネラルが豊富

農 協 | 畜 産 | 研 究 所

<畜試便り>

海藻アカモク粉末の飼料への添加が豚の免疫機能に及ぼす影響

宮城県畜産試験場

当場では平成14年度から、未利用資源を飼料に添加して給与し、豚自身の抗病性機能を亢進させることにより、抗菌剤に頼らない安全・安心な豚肉を生産することを目的に試験を実施してきました。昨年度は、海藻アスコフィラム・ノドサムが豚の糞便中の免疫グロブリンA (IgA) 濃度を高める効果があることを本誌で報告しました。今回は、県内産の海藻アカモクを用いて試験を実施したので、その概要を報告します。

1 試験の方法

材料はデュロック種の雌8頭を用い、抗菌剤無添加市販配合飼料のみを給与する対照区と、乾燥アカモク粉末を0.3%添加して給与する試験区に分け、単飼、不断給餌、自由飲水で体重30kg~105kgまで飼養しました。試験開始前(体重30kg)、及び体重が50kg、70kg、90kg、105kgに到達した時点で採血と採糞を行いました。まず、血液を用いて、白血球の貧食能(白血球が病原体などの異物を取り込み破壊してしまう能力)を測定し、さらに血清中のIgAとIgG(病原体と特異的に結合し白血球に貧食されやすくする抗体の一種)濃度及び糞便中のIgA濃度を測定しました。また、一日平均増体量(DG)、飼料要求率、臨床症状及びと殺時の内臓病変も調査しました。

2 結果

臨床症状、と殺時の内臓病変は両区とも変化は見られませんでした。また、DG、飼料要求率、白血球の貧食能、血清中のIgA濃度は両区に有意差はありませんでした。

血清中IgG濃度は、体重が70kg、90kg、105kgに到達した時点で、試験区が対照区に比べ有意に高い値となりました(図1)。また、糞便中のIgA濃度は、体重70kg、105kgに到達した時点で、試験区が対照区に比べ有意に高い値を示しました(図2)。

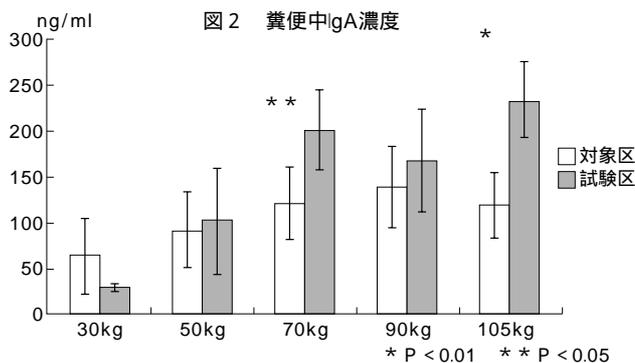
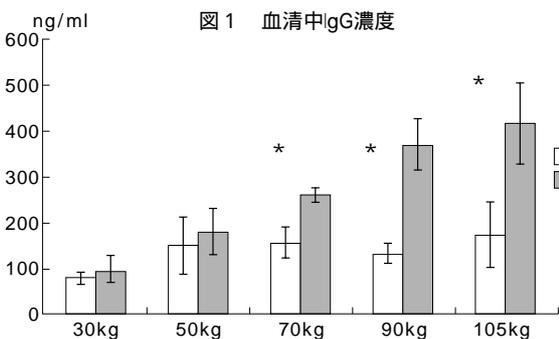
3 まとめ

食肉の安全性に対する関心が高まる中、抗菌剤を使わずに、いかに病気を防ぐかが課題となっています。

病原体による感染症の多くは、腸や気管などの粘膜を介して人や動物に感染します。粘膜では、胃液や絨毛運動などの化学・物理的な非特異的防御と、分泌型IgAを中心とした粘膜免疫による特異的防御があります。今回の試験では、海藻アカモクが腸管内のIgA濃度を高める効果があることが分かり、粘膜免疫機能増強に有効である可能性が示唆されました。

また、体内に侵入した病原体は、血中や粘膜の抗体(IgAやIgGなどの免疫グロブリン)と結合し、白血球に貧食されて分解します。今回、アカモクの添加により血清中のIgG濃度が上昇したことから、血液中の抗体産生能にも効果がある可能性が示唆されました。

今後は、県内養豚農家で海藻の給与試験を実施し、疾病に対する効果及び経済効果を検証していきたいと思えます。



* P < 0.01 ** P < 0.05 (種豚家きん部 豊島たまき)

来客 接待に牛乳を!!

県産牛乳の需要拡大を図る為、各団体並びに生産者団体におかれましては、会議、接客等に、従来のお茶に変わり牛乳をご利用下さるようお願い申し上げます。

宮城県牛乳普及協会
 〒984-0801 宮城県仙台市青葉区1-15-15 電話 022-254-2211

ビフィズス菌は

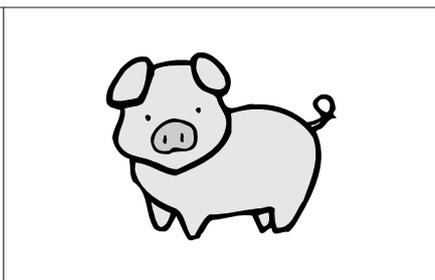
ヨーグルト中の乳酸菌の数は、どっちも同じではありません。

洗きたまま開までとどきます。

ビヒダス®

ヨーグルト 500ml

宮崎乳業株式会社 仙台支店 仙台市青葉区丁字1番1号
 TEL 022-254-2141



〈衛生便り〉 高病原性鳥インフルエンザ (H5N1)

～疾病の紹介と愛玩鶏やペットについて～

仙台家畜保健衛生所

この冬、アジアで猛威をふるっている高病原性鳥インフルエンザは、今年になって国内に79年ぶりの発生をもたらしました。インフルエンザウイルスは多様なタイプ(H1～15とN1～9の組み合わせで135種類)が知られていますが、鶏に高い病原性を示すタイプはH5とH7に認められ、今回、日本を含めアジアで流行したのがH5N1というタイプです。

高病原性鳥インフルエンザは家きんベストとも呼ばれ、発生すると多くの鶏が死亡してしまうことから、養鶏産業では最も重要かつ被害の大きな疾病として恐れられてきましたが、ベトナムやタイで、人に死亡例を含め感染を認めたことから(発症した人は発症鳥類と濃厚接触した人のみで、人から人への感染は無い)、養鶏産業のみならず関心が高くなっています。

庭で飼っている愛玩鶏やペットの鳥類は野鳥との接触機会が多い傾向にあります。野鳥は、このウイルスだけでなく、人に対しては感染の心配が無くても同じ鳥類である鳥達には感染しやすい病原体を運ぶ可能性があります。庭で鳥類を飼育している方は、鶏小屋やネットなどを利用して、なるべく野鳥との接触をさけることが様々な病気から鳥を守る直接の手段となります。また、こまめに掃除をすることで衛生的な飼育環境が得られ、鳥は強い体を保つ事ができます。さらに、良く観察してあげることで異常にいち早く気づくことが可能で、鳥の健康が保てます。飼養鳥に異常を認めた場合はすぐに獣医師等に相談してください。

高病原性鳥インフルエンザは、鳥類では高い死亡率が最も特徴的な異常として認められます。疑う例については、速やかな通報と防疫体制による、早い診断と疾病の封じ込めが重要になります。皆さんの御協力を御願います。

(病性鑑定班 小寺 文)

<New face>

宮城県畜産試験場
庄司理津子



平成15年4月より宮城県畜産試験場に勤務しています庄司理津子です。

長野県にあります信州大学農学部を昨年3月に卒業して地元である宮城県に戻ってきました。大学在学中は動物行動・管理理学研究室に所属し、毎日実験

動物の馬と羊の世話をしていました。

現在、私は畜産試験場の草地飼料部草地飼料チームに所属し、牧草の試験研究を担当しています。近年、国の機関は現在流通している牧草の品種よりもさらに良い性質を持った品種を作り出し、国内の自給飼料生産拡大に向けた取り組みをしています。その一環として、私が担当している試験では新しく作り出された牧草の宮城県での地域適応性を調査しています。また、この試験の結果は県内の牧草奨励品種選定の時に活かされています。牧草については大学の講義での知識のみで、牧草の現物と名前を一致させることもままならない状況で昨年4月に仕事のスタートを切りました。このような新人を懸命に指導して下さった周囲の方々のおかげでこの1年何とか過ごしてこられたと思っています。約1年経過した今でも分からないことは多くありますが、夏の暑い日に試験用草地で牧草の刈り取りをし、生産現場での仕事がいかに大変なのか身をもって体験したりとたくさんのことを経験することが出来ました。今年度で2年目になるのでより良い牧草を作るため日々努力し、さらに様々なことを学んでいこうと思いますので、周囲の方々、またこれから出会う方々ともよろしくお願います。



肉の日

毎月29日は肉の日です

お肉は、私たちの体の血となり肉となる、たいせつなタンパク源。ビタミン、ミネラルも豊富な、たいへん優れた食品です。

宮城県食肉消費対策協議会

〒980-0011 仙台市青葉区上杉1丁目16番3号 JAビル別館3F
電話 022-723-0731

〈人の動き〉
宮城県

退職 (3月31日付け) 産業経済部技術参事兼畜産課長

大橋 義信
平成16年4月1日付け

新	旧	氏名
産業経済部畜産課長	石巻産業振興事務所畜産振興部長兼仙台家畜保健衛生所次長	石川 勇志
産業経済部技術副参事 (監視伝染病対策担当)	古川家畜保健衛生所長兼古川産業振興事務所畜産振興部長	高橋 勝一
産業経済部畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当) 兼環境生活部食と暮らしの安全推進課食の安全安心推進員	古川家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当) 兼古川産業振興事務所	佐藤 実
産業経済部畜産課主幹	宮城大学事務局長主幹	畠 美苗
産業経済部畜産課技術補佐 (班長)	古川地域農業改良普及センター技術主幹 (班長) 兼古川産業振興事務所兼病害虫防除所	津場 俊行
産業経済部畜産課主任主査	築館産業振興事務所主任主査兼迫家畜保健衛生所	福田 智子
産業経済部畜産課主任主査	農業実践大学校技術主査	鈴木 秀彦
産業経済部畜産課主任主査	仙台家畜保健衛生所主任主査兼仙台産業振興事務所	石川 知浩
産業経済部畜産課	仙台家畜保健衛生所兼仙台産業振興事務所	高橋 幸治
産業経済部畜産課	仙台地域農業改良普及センター兼仙台産業振興事務所	小野寺 伸也
産業経済部畜産課技術主査	古川地域農業改良普及センター技術主査兼古川産業振興事務所	山田 智子
産業経済部畜産課技術主査	石巻地域農業改良普及センター技術主査兼石巻産業振興事務所	熊谷 弘明
産業経済部畜産課	石巻産業振興事務所	伊藤 裕
大河原家畜保健衛生所長兼大河原地方振興事務所畜産振興部長	産業経済部技術副参事 (BSE対策担当)	佐々木和夫
大河原家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼大河原地方振興事務所地方振興部企画員	仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼仙台産業振興事務所	高橋 健
大河原家畜保健衛生所兼大河原地方振興事務所	新規採用	高森 広典
仙台家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼仙台地方振興事務所	古川家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼古川産業振興事務所企画総務部企画員	岸田 忠政
仙台家畜保健衛生所技術主幹兼仙台地方振興事務所	畜産試験場主任研究員	大友 一博
仙台家畜保健衛生所主査兼仙台地方振興事務所	農業短期大学主査	文屋 尚美
仙台家畜保健衛生所兼仙台地方振興事務所	迫家畜保健衛生所兼迫産業振興事務所	石橋 拓英
古川家畜保健衛生所長兼古川地方振興事務所畜産振興部長	大河原家畜保健衛生所長兼大河原産業振興事務所畜産振興部長	田中 廣
古川家畜保健衛生所次長 (総括担当) (食の安全安心担当) 兼古川地方振興事務所	産業経済部農業振興課技術補佐 (班長)	及川 惠壽
古川家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼古川地方振興事務所地方振興部企画員	大河原家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼大河原産業振興事務所企画総務部企画員	織江 貞二
古川家畜保健衛生所技術主幹兼古川地方振興事務所	産業経済部畜産課主任主査	嶋田 俊治
古川家畜保健衛生所主任主査兼古川地方振興事務所兼産業経済部畜産課	産業経済部畜産課主任主査	齋藤 裕
古川家畜保健衛生所技術主査兼古川地方振興事務所	畜産試験場研究員	豊島たまき
築館地方振興事務所畜産振興部技術主幹兼迫家畜保健衛生所	産業経済部畜産課主任主査	大久 範幸
迫家畜保健衛生所技術主査兼迫地方振興事務所	産業経済部団体指導検査課技術主査	豊島 稔
迫家畜保健衛生所兼迫地方振興事務所	古川家畜保健衛生所兼古川産業振興事務所	長内 利佳
石巻地方振興事務所畜産振興部長兼仙台家畜保健衛生所次長	産業経済部畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当) 兼環境生活部食の安全安心対策室食の安全安心推進員	小野寺 千一
石巻地方振興事務所兼仙台家畜保健衛生所	畜産試験場	猪股 永治
畜産試験場上席主任研究員	産業経済部畜産課技術補佐 (班長)	佐藤 章
畜産試験場副主任研究員	古川家畜保健衛生所主任主査兼古川産業振興事務所	吉野 淳良
畜産試験場	大河原家畜保健衛生所兼大河原産業振興事務所	植田 郁恵
石巻県税事務所次長 (班長)	産業経済部畜産課長補佐	星 昇一
気仙沼地方振興事務所農林振興部技術次長 (班長) 兼地方振興部企画員	迫家畜保健衛生所技術主幹兼迫産業振興事務所	菅原 英俊
大河原地方振興事務所主任主査兼大河原地域農業改良普及センター	産業経済部畜産課主任主査	齋藤 弘之
農業実践大学校技術主査	産業経済部畜産課技術主査	目黒 忍
仙台北県税事務所主査	仙台家畜保健衛生所主査兼仙台産業振興事務所	新井 由香
石巻地方振興事務所技術主査兼石巻地域農業改良普及センター	産業経済部畜産課技術主査	中條 満
大河原地方振興事務所	産業経済部畜産課	高貫 康雄
古川地方振興事務所兼古川地域農業改良普及センター	石巻産業振興事務所兼仙台家畜保健衛生所	平子 智子
産業経済部団体指導検査課技術主査	産業経済部畜産課技術主査	荒木 利幸

宮城県動物薬品器材協会

(会員名)

(株) 美濃谷

仙台市太白区羽黒台31-14 TEL022-245-4306

(株) アスコ東北支店

仙台市青葉区上杉3-3-8 TEL022-225-7330

小田島商事(株)

古川市清水字周防10-1 TEL0229-26-4567

東新薬業(株)

古川市古川字上古川屋敷9-1 TEL0229-24-3211

(株)アグロジャパン宮城営業部

仙台市若林区卸町東1-8-20 TEL022-232-9755

全農宮城県本部

退職(3月31日付け)
〃
〃

家畜市場課
家畜市場課
家畜市場課

吉岡耕三郎
本間恵子
平塚わか子

平成16年4月1日付け

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for the Miyagi Prefecture Livestock Market Section.

宮城県農業共済組合連合会

退職(3月31日付け)

家畜診療研修所次長

吉田重夫

平成16年4月1日付け

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for the Miyagi Prefecture Agricultural Mutual Aid Association.

(社) 宮城県農業公社

退職(3月31日付け)

事務局長
白石牧場上席主任主査
事業局畜産振興班上席主任主査
白石牧場上席主任主査

菅原敏夫
高子喜一
佐竹進
氏家和好

平成16年4月1日付け

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for the Miyagi Prefecture Agricultural Public Corporation.

宮城県配分飼料価格安定基金協会

平成16年4月1日付け

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for the Miyagi Prefecture Feed Distribution Price Stabilization Fund Association.

(社) 宮城県畜産協会

退職(3月31日付け)

事務局長兼家畜衛生課長
生乳検査課技師
経営支援課主事
家畜改良課長
家畜改良課技術主幹
家畜改良課主査
家畜改良課主査
家畜衛生課主任主査

谷津邦郎
伊藤武彦
安住英一
上野新久
伊藤久美
佐藤潤雅

平成16年4月1日付け

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes for the Miyagi Prefecture Livestock Association.